



15パズル

1870年代にアメリカのサム・ロイド氏が創作したパズル。今でもあちこちの観光地などで絵柄を変えて売られています。駒を持ち上げずに滑らせるように動かし、空所を利用して駒を移動させる

スライディング・ブロック・パズル。数字を揃える、絵柄を揃える。そうしたものがほとんどですが、かつてアポロ社から発売された15パズルたちは、ちょっと違いました。単に数字や絵を揃えるだけでなく、スタートからゴールに至る、ひとつのストーリーがありました。

「愛の山河」

川をはさんで向かい合う男女が、無事に川を渡って結ばれます。



「男と女」

そっぽを向き合う男女も、お互いを見つめると、そこには・・・



「消えた王様をさがせ」

スタート時には3人の王様がゴールの状態では4人に増えています。消えるパズルをモチーフにしてうまく作られています。



「スヌーピーの電話の輪」

ばらばらになっている友だちとの電話を1本のラインでつなげよう。これでみんなとお話できます。

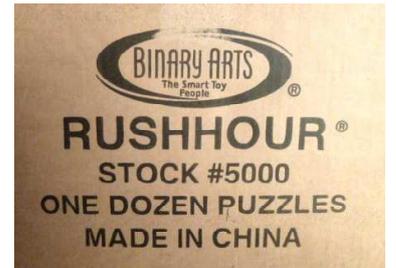


RUSH HOUR



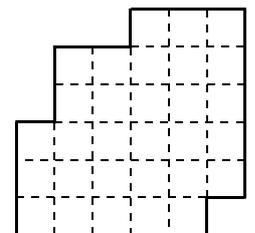
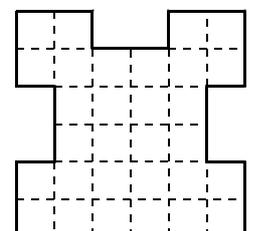
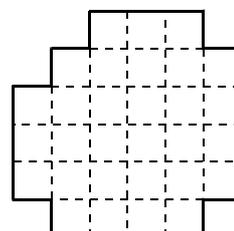
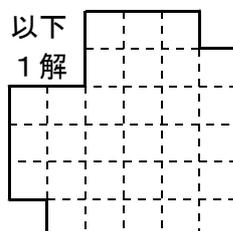
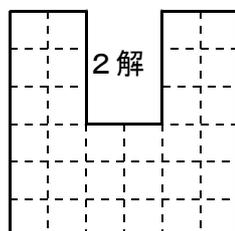
何度かの移転の際、荷物を入れて運びました。その段ボール箱をよく見ると、2種類あることに気づきました。

こんなことにもRUSH HOURの歴史を感じます。



Rabbitパズル追加問題

同じ色のピースが辺でも頂点でも接しない（ノットカラーマッチ）ように枠に収めるパズル。もっともっとお楽しみください。



鉛筆で組む



ジョージ・ハート氏の鉛筆72本組
これを組むには市販の普通の鉛筆
では太くて長さが足りません

ずっと細い鉛筆を探してしまっ
たがどうやら日本の鉛筆の規格ではな
さそうです



そんな折り
ついに見つけま
した
プラスチック
鉛筆 まあ材質
はなんであれ
細さと長さのバ
ランスが肝心

これでなんとか組めるかと思
いましたが残念3ダースしかあり
ませんでした

そこで仕方がないので組んだ
ものが次の正十二面体

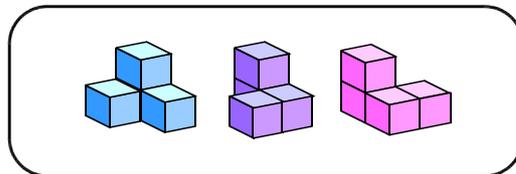


鉛筆30本が必要です
この組み方は 大塚昭氏に教わ
った組み方で組みました
今まで数十個は組んできたので
迷うことなく 組むことができました
大塚さん ありがとうございます

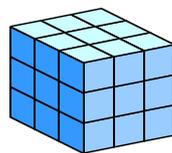
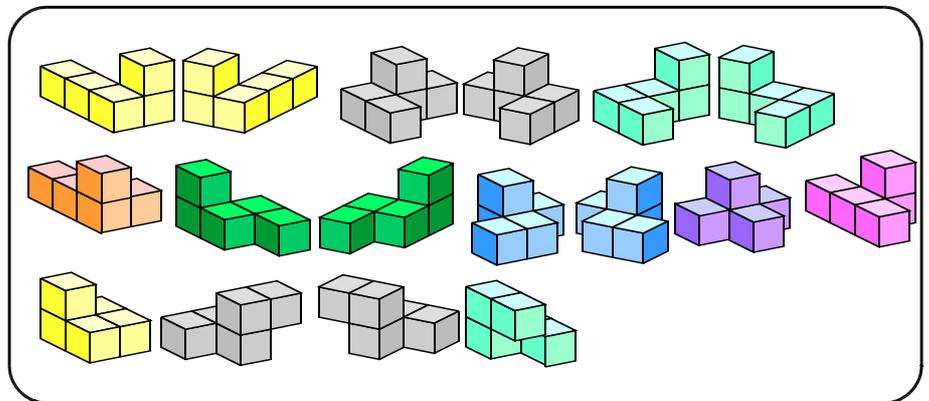
3 × 3 × 3 の立方体を組む



立方体を4個 面で繋げた形 (テトラキューブ) は8種類
その内 平面タイプは5種類 立体型タイプは次の3種類



立方体を5個 面で繋げた形 (ペンタキューブ) は29種類
その内 平面タイプは12種類 立体型タイプは次の17種類



3 × 3 × 3 の立方体は 単位立方体27個分
まず テトラキューブ3種類を必須ピースとする
これで12単位 残り15単位をペンタキューブ17種類
から3種類を選んで合計27単位で組む

ペンタキューブを3種類選ぶ 選び方は多くあります 選び方
によっては 解が存在しないものもあります あるいは多くの解
を持つものもあります

それらの組み合わせの内 解がユニーク すなわち一通りしか
ない組み合わせは全部で23組あります

Kozy氏に調べていただきました

その23組を 組んだものが上の画像の立方体です
たかが6ピースの組み合わせ されど6ピース
運がよければ数秒で組めるかもしれません 運が悪くなければ
30分がんばっても 組めないかもしれませんよ